

バイヨン中学校環境教育の構想

地球規模でのゴミ問題は、カンボジアにおいても拡大の一途をたどってきている。特に同国のごみ処理は、焼却処分はほとんどなく、ましてやりサイクルシステムはまったく機能していないなど課題が山積みである。名だたるフィリピンのゴミの山同様に、シェムリアップ市（人口約 25 万人）のそれも年々その頂を高くしてきているのが現状。

その背景には、日用品などに使用されている安価で簡便な包装用プラスチックなどの石油製品ゴミや紙類の大量投棄がある。それらが、市街地の道路はもちろん農村地域のあちらこちらでも目に余る状況をつくり出してきている。また、生活排水の垂れ流しが、河川や湖の水質の安心安全を脅かしてきているのも事実である。特に、ゴミがカンボジアの至宝としてのアンコール遺跡の美観や保存を損ねたり、さらにカンボジアの水・食（魚）を支えるトンレサップ湖の水質汚染へ広がったりと、地域住民はもちろんのことカンボジア国にとっての危機でもある。

このような背景を踏まえ、学校を起点としての5km圏内の学区、10km圏内のアンコール遺跡群、さらに20km圏内のトンレサップ湖を対象に、バイヨン中学校は実践活動の定着・発展を目指した新たな環境教育に踏み出した。以下は、実践の概要である。

「大好きシェムリアップ！私たちの環境保護への挑戦」（仮題、以下同様）

7年生実践：「きれいな学校、美しい学区づくりへの美化活動体験チャレンジ」

学校長の教育方針のもと校内の環境美化に積極的に取り組んでいるバイヨン中学校。2018年末には焼却炉も建設され、生徒の美化意識の高揚に一役買っている。

そんな中、「美しいカンボジアは、私たちの学校から」を合言葉に、校内美化活動を発展させ、校区内のゴミゼロ運動へと展開させていく。特に毎年3月をその運動月間として位置づけ、生徒たちの力で企画運営した環境保護活動を展開していきたい。

8年生実践：「私たちの命の湖トンレサップ、安心安全の水・食づくりへの挑戦」

学区内を流れる河川はトンレサップ湖へと流れていく。湖には100万人を越す水上生活者がおり、まさにカンボジアの『母なる湖』である。また、シェムリアップ市民が食べている魚貝類のほとんどはトンレサップ湖産であり、まさに『食の湖』でもある。

このトンレサップ湖の安心安全の確保に向けて、河川・湖の美化運動を発展させる。特に、毎年11月には生徒の企画運営による湖のゴミゼロ活動を実施し、あわせて市民や観光客への啓発運動を展開する。

9年生実践：「持続可能なアンコール遺跡保護、私たちのクリーン大作戦」

世界遺産アンコール遺跡の数々は学区内にも存在し、一部の生徒にとっては生活費を得るためのアルバイトの場にもなっている。しかし、そんな中にあっても遺跡の歴史的背景や存在意義の理解はまだ不十分である。遺跡学習を通してこれらの価値を理解するとともに、保存意識の高揚をめざすことが重要である。

この遺跡学習を踏まえ、さらに7年・8年生の環境保護活動の経験を活かしたアンコール遺跡保存のための環境美化活動を毎年高校入試終了後の8月に実施し、卒業（8月31日卒業）に向けてバイヨン中学校で学んだこと、さらにアンコール遺跡の環境保護に携われたことを誇りに思うような活動に育てていきたい。

NPO法人オアシス主催

バイヨン中学校環境教育への参加及びアンコール遺跡群見学ツアー

1 日程：2019年8月7日（水）～8月11日（日）

7日（水） ○ 中部国際空港（集合） ⇒ 出国（VN347） ⇒ ハノイ空港
8：00 10：15 13：20

※日によって若干の時間変更あり

ハノイ空港（VN837） ⇒ シェムリアップ空港
15：10 16：55

⇒ ホテル（ルー校長以下現地関係者との懇談）

8日（木） ○ バイヨン中学校（学校紹介・案内・遺跡学習参観）
8：00 ⇒ 11：30

○ シェムリアップ市内散策（買い物）
14：00 ⇒ 17：00

9日（金） ○ 9年生の環境学習に参加「アンコールワット・トム」周辺
7：00 ⇒ 11：00

○ アンコールワット・トム遺跡の見学
15：00 ⇒ 18：00

○ バイヨン中学校教職員（現地関係者）との交流会
18：00 ⇒ 20：00

10（土） ○ タフローム遺跡 ⇒ トンレサップ湖周遊
9：00 11：00

○ シェムリアップ空港 ⇒ ハノイ空港 ⇒ 中部国際空港
20：30（VN834） 22：15 00：25（VN346） 6：30

2 参加者

募集人員（上限15名）＋ オアシスメンバー若干名

※参加者1名の場合においても実施

3 費用（概算）

航空運賃（7～9万円）

宿泊費 1泊40\$（3.5泊） 10日LC有り（5時ピックアップ）

交通費・入場料 100\$（参加者数によって交通費は異なる）

その他飲食費・土産代

その他 事前説明会あり（7月）

航空チケット購入に当たりパスポートの写しが必要

私にとっては 2 年ぶりの 11 月カンボジア訪問。1 月が運動会、5 月が文化祭を核とした訪問であるのに対して、まさに今回の訪問は授業実践の訪問と言ってもよい。結果として、バイオン中での実践 55 時間、養成校 9 時間。特にバイオン中において、本法人社員が複数の授業を並行して行っている時間帯 (最大 4 実践) は、生徒が精一杯学び、バイオン中の先生たちも躍動し、学校全体に大輪の花が咲いているような華やかさと活気があった。私たちが期待する学校のあるべき姿である。

特別参加の小田さん、牧野さんにも物心両面で授業実践にご協力いただき、感激でした。ご兩人には新奇なカンボジア訪問だったと拝察いたしますが、満喫いただけましたでしょうか？

全体的視点から

○ ベトナム航空ならではの時間帯機上で、眼下にトンレサップ湖及び浸水林の広がりが見られたことは感激であった。

○ 授業実践希望が多く、特に 2 年生の実践に集中したためその割り振りに腐心したが、ルー校長の協力を得てほぼ予定を完遂した。ただ、私個人からすると、トンレサップ湖のワークショップが予定の土曜日から日曜日に変更され、一足先の帰国のため見届けることができず残念であった。(他メンバー談)

※授業日に郊外へ子どもを引率するような場合は教育庁の許可が必要

○ 今回は、ルー校長、チア・小出さん、セイハー (通訳) ら皆さんとじっくり話す機会を持つことができ、教育 (環境教育)、教育界 (教員意識・待遇)、政治情勢 (国民感情) などについてのより深い理解を得たり、あらたな情報を手に入れることもできた。

[例]・ルー校長給料 340\$ ガソリン代月 120\$ (トヨタ:ハリアー)

・セイハー談「政府批判は逮捕、フンセン独裁化への危機感」

○ バイオン中学校の先生たちの授業実践への参加が毎回増えており、これらのモデル授業が授業力向上への基点になっている。特に若い女性の先生たちの積極さが目立つ。(職員男性 4 人、女性 10 人)

環境教育実践から

○ トンレサップ湖ワークショップについては、生徒の学習意識が低く、学習内容への理解もさることながら取り組みへの構えづくりの重要性を痛感した。(後日談から) これらを踏まえて、中学 1 年生からの系統的な学習・体験を積み上げていくことが重要である。(別添「ひろしま・祈りの石国際教育交流財団」助成申請内容)

○ 上記構えづくりにかかわり、各学年が野外活動を実施するような場合に着用する「ビブス」250 着 (28 万円) を助成申請費用の一部として計上している。そのビブスにプリントする文字が重要で、1 月の訪問までには決めるとのこと。助成の可否にかかわらず実施予定。(例: Beautiful Cambodia 胸クマール,背英語)

モン・ヒアット (15・女)

バイオン中学校の生徒として、トンレサップ湖を守らないといけないと思います。水にゴミを捨てない、生き物や植物を守ったり産卵期に漁をしないよう、皆で協力してトンレサップ湖を守るよう啓発していきたい。

このトンレサップ湖のスタディーツアーは初めてでしたが、とても楽しかったです。トンレサップ湖はとても大きな湖で、魚がとてもたくさんいるということを知り、私たちカンボジア人にとって大切な湖であるということがわかりました。観光客にとってトンレサップ湖はとても良い場所だと思います。しかしゴミが多く、水上生活をしている人は、カンボジア人よりもベトナム人の方が多かったです。

トンレサップ湖をもっともっと気になる存在にするためには？

